

デジタルではできないこと 人間の魅力がそこにある 『小豆島・語り部マップ』

世の中の多くはデジタル化しています。もはや色々なことがアプリで解決してしまいます。では、どうしたらその土地をより魅力的な観光地にすることができるのでしょうか？こんなことを考えながら私達がたどり着いた結論は「人間」です。今回、私達は偶然にも様々な地元の人達と会い、彼らから多くの興味深い話を聞くことが出来ました。この「偶然」と「人が語る面白さ」を融合したのが「小豆島・語り部マップ」です。この「面白い話をする地元民」の生息マップはまるで「野生動物を探す面白さ」のように「人を探す面白さ」を生み出します。



プロジェクトメンバー

芝浦工業大学デザイン工学部 2年
芝浦工業大学デザイン工学部 2年
芝浦工業大学デザイン工学部 2年
香川大学創造工学部 1年

村田 千尋
田添 優輝
西野 はる菜
村主 涼太

ポイント そこにしかない「偶然の出会い」をつくる

「小豆島・語り部マップ」は観光ガイドのような至れり尽くせりのサービスは一切提供しません。ただ、「誰がどんな面白い話をするポテンシャルを秘めているか？」そして、「彼らがどこに生息しているか？」を記しただけのマップです。

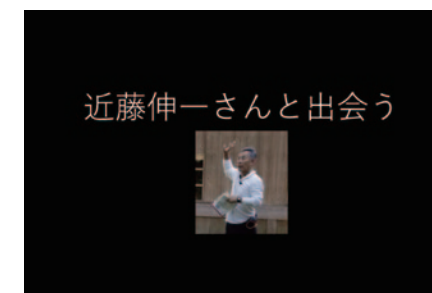
もちろん、観光ガイドではないので、たとえ発見したとしても「話しか

けるか否か」そして「面白い話を引き出せるか否か」は、あなたのコミュニケーションスキルにかかっています。

何故、ちゃんとしたサービスにないかって？それは簡単です。野生動物が檻の中にいたら、それはただの動物園だからです。そこには「山の中で野生動物を見つけた」時のよ

うな驚きや嬉しさはありません。この「偶然への喜び」が旅の思い出を盛り上げるのです。これが私達の狙いです。

また、サービスを盛り上げる手段として相撲番付のような「語り部番付」を作るのも、我々のサービスのポイントです。



語り部番付

- ・観光客がフェリーで島から帰る際に、MAPに載っている島の人で印象に残っている人に丸を付け、投票し帰ってもらう
- ・投票結果は島の観光サイトに定期的に発表される
- ・発表は村長の寄付のおでいわれる

感想 Face to Faceの価値

私は今回、小豆島で多くの貴重な体験をさせていただきました。最初は移動手段の少なさや街頭の少ない夜の街、高低差の激しい坂、そして島という隔離された環境に不便さを感じることもありましたが、しかし、先祖代々受け継がれる醤油や農村歌舞伎の歴史、棚田での稲刈り体験、地引網体験などを通して島のこ

とを知っていくうちに、歩くことで見えてくる特別な景色や達成感、無数の星が輝く空など、小さな幸せをたくさん与えてくれる小豆島の魅力にのめり込んでいきました。また、多くの地元の人達と出会い、貴重なお話を聞くことができました。

小豆島で多くの地元の人達と出会う中で、私は人と人の繋がりの大切

さについて学びました。直接会ってお話することでしか分からない、表情、声、雰囲気には、SNSで繋がるだけでは分からない価値があるということに気付くことができました。

(田添 優輝)